

「おかやま四ツ☆子牛」における 子牛上場日齢と肥育成績

畜産研究所 改良技術研究室 育種改良研究グループ
飼養技術研究室 生産性向上研究グループ

岡山県では、総合家畜市場に上場される和牛子牛の資質を向上させて、肥育農家の求める子牛の生産を目的に、「おかやま四ツ☆子牛」（以下、「四ツ☆子牛」とする）の取り組みを行っています。

表1 四ツ☆子牛認定基準（R2.3月現在）

☆ 出荷日齢：雌 225日齢以上 285日齢未満 去勢 215日齢以上 275日齢未満
☆ 体高及び胸囲：全国和牛登録協会が示す発育基準 の1.0σ以上
☆ 胸囲と腹囲の差 2.2cm以上
☆ 過肥、著しい瑕疵、損傷のないこと

※σ値…標準偏差のこと。数値が大きいほど平均から離れていることを意味する。

1 四ツ☆子牛の認定状況と上場日齢

表1の4つの（☆）の条件を満たした発育良好な子牛に与えられる称号が「四ツ☆子牛」です。

図1は、過去10年取り組んできた四ツ☆子牛の認定状況の推移です。

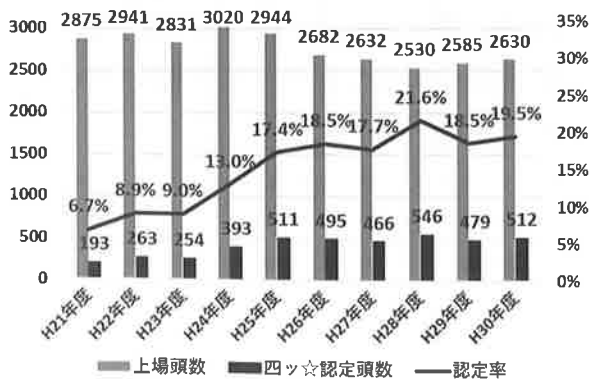


図1 四ツ☆子牛認定状況の推移

開始当初は、数パーセントであった認定率は、様々な取り組みを行う中、最近では、約20%にまで上昇しています。

主催する資質向上協議会では、認定率30%を目標にかかげており、更なる取り組みが必要です。

そうした中、市場に上場される子牛の状況にも変化が見られます。図2は、平成26年度から30年度までの5年間、市場に上場された去勢子牛について、年度毎の日齢別上場頭数の変化を示したものです。

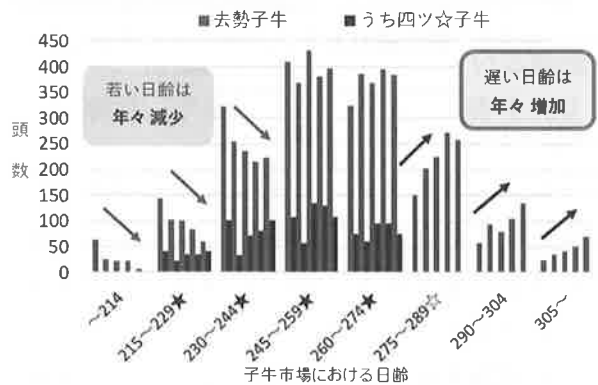


図2 H26～H30年度の日齢別出荷頭数の推移

去勢では四ツ☆子牛認定基準の日齢は、215日から274日でしたが、近年、若い月齢の子牛は減少傾向である一方、日齢の大きい子牛は増加傾向にあります。「四ツ☆子牛」の認定基準日齢を超えた牛が増加傾向にあり、そのなかには優良な子牛が多数いるものと思われます。

2 子牛市場における日齢と肥育成績

図3～5は、これまでに子牛市場に上場され、その後肥育された去勢牛の枝肉成績を元に、子牛市場での出荷日齢区分毎に肥育成績を示したものです。肥育後の枝肉重量を見てみると、子牛市場における上場時の日齢が若いほど大きい傾向であることが分かります。

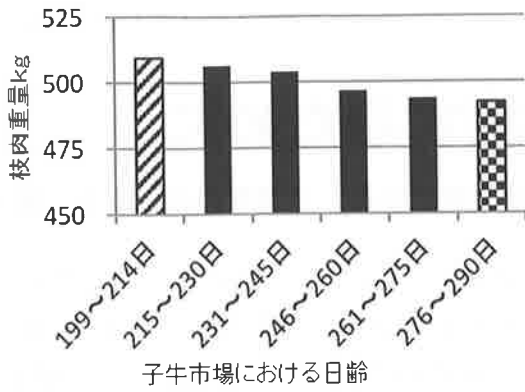


図3 子牛市場の日齢と枝肉重量

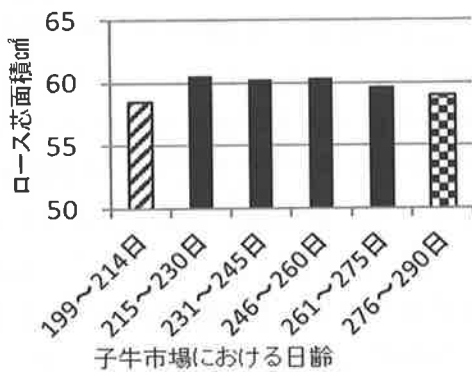


図4 子牛市場の日齢とロース芯面積

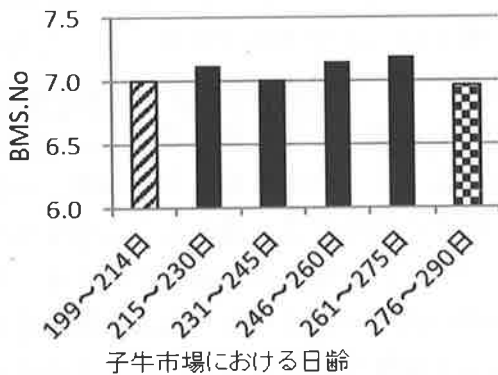


図5 子牛市場の日齢とBMS.No

子牛市場で非常に若い日齢の子牛は、発育が特に優れており、肥育に入っても特に優れた増体を示していることが伺えます。

また、現行の四ツ☆子牛の日齢基準を超えていた牛もロース芯面積やBMS.No等、肥育成績は良好であることが分かります。

一方で、子牛市場から導入後、肥育出荷するまでの肥育日数を図6に示しました

が、若い日齢で市場された子牛は肥育日数が長くなり、子牛市場市場時の日齢が増す毎に、肥育日数が短くなる傾向が見られました。

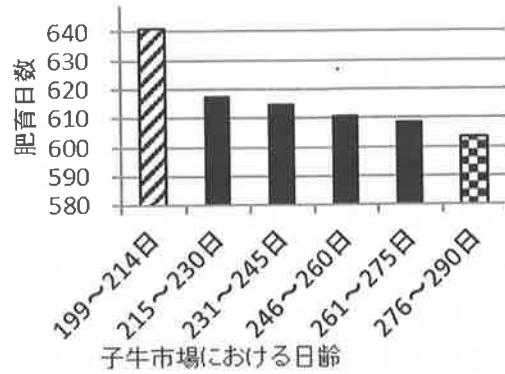


図6 子牛市場の日齢とその後肥育日数

肥育後の枝肉市場では、出荷月齢の早い牛は、肉のしまりや中・後軀でのサシの弱さが懸念されることから、28ヶ月齢以降の枝肉が望まれる場合もあります。

子牛市場で若齢の牛は、発育良好であることから、枝肉重量も大きくなるのが期待できますが、月齢に合わせた群管理の中でのビタミンA制御や出荷時に若齢であることで枝肉評価が下がることが懸念されるなど課題もありますので注意が必要です。

3 最後に

子牛の状況は年々変化しており、従来より市場時の日齢が増加する傾向にあります。日齢が四ツ☆の認定上限を超えた子牛も肥育成績は良好であることから、去勢、めすともに日齢基準を見直すこととなりました。

令和2年度4月子牛市場からは、日齢基準を15日延長して四ツ☆子牛が認定されるように基準を改めることとしています。

より多くの四ツ☆子牛の表示販売につなげて、皆様とともに更なる資質向上を目指していきたいと思ひます。